

5 海外プログラム事業部（国際協力、国際支援）

●2016年度「海外プログラム事業部」の主な活動

日にち	内容（参加人数）
5/2（月）～5/4（水・祝）	「ペットボトルキャップ回収キャンペーン」（15名） ※1,867個（約2人分のワクチンに相当）のキャップを回収
5/20（金）	「世界一大きな授業」（16名）
6/20（月）・6/23（木） ・6/24（金）	「Be a Go-Getter ～6分間の野心的な話～」（3日間52名） ※留学や海外インターンシップなど海外で、あるいは国際問題に関して活動経験や活動を予定している学生のトークイベント
9/3（土）～9/13（火）	海外スタディツアー（タイ王国）（19名、引率教職員2名） ※テーマ：「持続可能な地域開発」と「ジェンダー問題」を学ぶ ※詳細は「特集3」（P19）をご覧ください
9/21（水）	公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン主催「ルワンダの女の子応援プロジェクト」参加（2名）
10/3（月）～10/28（金）	「国際ガールズ・デー」記念ブックフェア2016@MGU 横浜生協、横浜図書館
10/27（木）・10/28（金） ・10/31（月）	「☆ハロウィン企画☆ペットボトルキャップ回収キャンペーン」（28名） ※5,884個（約6.8人分のワクチンに相当）のキャップを回収
11/7（月）～11/25（金）	タイスタディツアーパネル展@横浜図書館、クララ・ラウンジ
11/17（木）	タイスタディツアー報告会（30名）
12/2（金）	ディスカッションイベント「ジブリ、ディズニー映画から考える ～女の子ってなんだろう？～」（29名）
12/19（月）～2/28（火）	書き損じはがき・未使用はがきキャンペーン2017
1/17（火）	エフエム戸塚「とつか Evening station」で「書き損じはがき・未使用はがき回収キャンペーン」を紹介（2名）
2/11（土・祝）・2/12（日）	UNIQLO×UNHCR 共同衣服回収イベント「難民に服を送ろう」（12名）

5.1 ガールズセクション

海外プログラム事業部のガールズセクションは日本も含めた世界の女性問題にフォーカスを当て、イベント等を通して啓発活動をおこなっている。

◇「国際ガールズ・デー」記念ブックフェア2016@MGU

目的	女性問題に関する書籍の広報。このキャンペーンを通して女性問題に興味を持ってもらい、その後のガールズ関係のイベント等への参加を促す
日時、場所	2016年10月3日（月）～10月28日（金） 明治学院生協横浜、横浜キャンパス図書館

実施概要

国連が定めた「国際ガールズ・デー」(10月11日)や、世界の女の子がおかれている状況について知ってもらおうと実施。日本国内の NGO や教育機関、企業などで結成し、ボランティアセンターも加入している「国際ガールズ・デー推進ネットワーク」で作成する書籍の中から選んだ 12 冊を学生メンバーがそれぞれ読み、書評のポップを作成し図書館と大学生協に置かせてもらう。

感想・活動を通して得た学び

学生メンバーも本を読むので、自分たち自身も女性問題について理解することができた。またそれを自分たちでポップにすることで内容を整理でき、また相手に伝えるときの言葉の選び方も学ぶことができた。

今後に向けて

より多くの人に読んでもらい、女性問題について知ってもらいたいため、設置している本に“いいね”機能のようなものをつけたりする工夫や、設置場所を通ってすぐに何のキャンペーンかわかるように装飾等を工夫していきたい。

(学生メンバー 文学部英文学科)

◇ジブリ、ディズニー映画から考える ～女の子ってなんだろう？～

目的	映画を通してジェンダー問題を身近に感じてもらう。ジブリとディズニーという先進国の映画のジェンダー問題を見ていくことで、ジェンダーの問題は途上国だけではないということに気づいてもらう
日時、場所	2016年12月2日(金) 18:30~20:00、横浜キャンパス 613 教室
参加人数	29名(内、学生メンバー13名)

実施概要

参加学生をジブリグループとディズニーグループに分け、それぞれ映画のヒロインを中心とした登場人物の描かれ方をジェンダーという視点から考えて、パワーポイントにまとめ、それぞれグループ発表をしてもらう。ゲストに英文学科教授の貞廣真紀先生を招き、各グループ発表後にコメントをいただいた。そのコメントを受けてグループ同士で話し合い、もう一度発表した。これらの発表とディスカッションを総合して貞廣先生にどちらのグループが優れていたか評価していただいた。

感想・活動を通して得た学び

ディズニーとジブリというポピュラーな映画を今回取り上げたこともあり、参加者が積極的に意見を言っていたのが印象的だった。ディズニーとジブリという比較だけではなく、時代ごとの女性の描かれ方などの視点で見ても良いと思った。また実施して、イベントを運営する際のファシリテーターの存在の大切さを感じた。私たちのファシリテーターとしてのスキルが必要だと思った。

今後に向けて

学生メンバーで、発展途上国だけでなく先進国のジェンダー問題について勉強会をするなどしてさらに理解を深めていきたい。また今回イベントを運営するうえで、メンバー同士の信頼関係やイベントの進捗状況等の共通認識がいかに大切かということを学んだ。先輩が引退してから初めてのイベン

トだったため、とまどいもあったが新体制のガールズセクションの土台ができたように感じた。

(学生メンバー 文学部英文学科)

◇書き損じはがき・未使用はがきキャンペーン 2017

目的	公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンが推進する、子どもの権利が守られ、女の子が差別されない公正な社会を実現するための活動を、書き損じはがきの回収というかたちで支援する
期間	2016年12月19日(月)～2017年2月28日(火)

実施概要

国際 NGO 団体であるプラン・インターナショナル・ジャパンの企画で書き損じはがき・未使用はがきを回収。学生がはがきのカウントをして切手へ交換し、現金に換金する。換金したお金は教育や栄養、女の子の支援などプラン・インターナショナル・ジャパンの活動資金として寄付される。今年度は12,191枚ものはがきを送っていただき、換金した452,390円を寄付することができた。

感想・活動を通して得た学び

今年で4回目の参加となるこのキャンペーンで、今年度もたくさんのはがきの寄付をいただいた。FM戸塚に出演させていただき、毎日新聞やタウンニュース、クリスチャントゥデイ等に取り上げていただいたこともあり、キャンパス周辺地域、首都圏だけでなくさまざまな県の方々からも送っていただいた。こういった支援に賛同してくださる方がたくさんいることに気づき、非常に励みになった。

今後に向けて

たくさんの人にこの活動を知っていただけたのはプレスリリースの効果が大きかったと思う。今後も広報などにも力を入れ、より私たちの活動にご理解、ご支援をいただけるように努めていきたい。

(学生メンバー 文学部英文学科)

5.2 イベントセクション

◇ペットボトルキャップ回収企画 ～GW編～

目的	ペットボトルキャップ回収の促進
日時、場所	2016年5月2日(月)～4日(水・祝) 横浜キャンパス4号館前
参加人数	15名

実施概要

2016年のイベントセクションは5月のゴールデンウィーク(GW)におこなったペットボトルキャップ回収企画から始まった。イベントセクションの定期イベントを目指しているこの企画は、2015年の10月から始まり、今回が2回目である。今回は明学生にキャップ回収のボランティアを呼びかけ、GWも登校する明学生を対象にキャップとお菓子の交換を実施した。結果1,867個のキャップを回収することができた。



ペットボトルキャップとお菓子を交換

感想・活動を通して得た学び

まず入学してきたばかりの新生に、キャンパス内でペットボトルキャップを回収していることをこのイベントを通して知ってもらえたら、という気持ちでおこなった。家からわざわざたくさんのキャップを持ってきてくれる学生もいて、嬉しかった。

今後に向けて

結果は自分たちが予想していたよりも少なかったのですが、次回以降は認知度が上がって回収量が増えることを期待する。

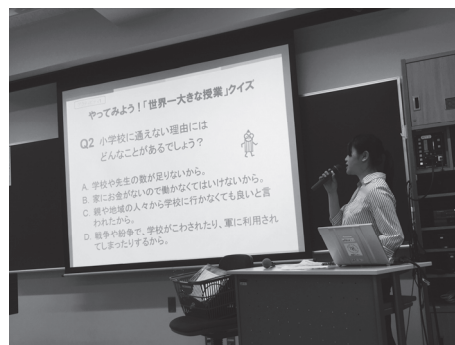
(学生メンバー 社会学部社会学科/学生メンバー 国際学部国際学科)

◇世界一大きな授業

目的	教育の大切さを伝える
日時、場所	2016年5月20日(金)、横浜キャンパス 642教室
参加人数	16名(内、学生メンバー10名)

実施概要

5月におこなった教育協力NGOネットワーク(JNNE)提供の「世界一大きな授業」では、新しく1年生を学生メンバーに迎え、初々しい新1年生が世界の教育に関する授業を堂々とおこなった。文字の読み書きができないと、命の危険をもともなうということを体験型のアクティビティで伝えたり、世界の教育状況をクイズ形式で出題したりとわかりやすく、アットホームな雰囲気のなかでおこなった。



入学・入部したばかりの1年生も先生として挑戦

感想・活動を通して得た学び

新1年生の登竜門となりつつある「世界一大きな授業」。今回で海外プログラム事業部がおこなうのは3年目である。学生メンバーによる自作の授業もあり、その創意工夫にも驚いた。

今後に向けて

2015年度におこなったイベントの一つに、5限後に時間を設定したため参加人数が少ないという反省があった。このことから今回は4限の時間帯からスタートしたが、これもまた「授業があるため途中参加になってしまう」との声をいただいた。広報が足りなかったのか、時間帯の設定が悪かったのか、参加人数がもう少し多ければいいなと思ったので、次回イベントをやる際の参考としていきたい。

(学生メンバー 社会学部社会学科/学生メンバー 国際学部国際学科)

◇Be a Go-Getter ～6分間の野心的な話～

目的	おもに新生にこれから学生生活をどのようにしていくか、ヒントを与える
日時、場所	2016年6月20日(月)、23日(木)、24日(金)、横浜キャンパス 821教室
参加人数	3日間計 52名(内、学生メンバー20名)

実施概要

6月には、もっと明学生が野心的に意欲的にやりたいことに取り組んで欲しいという思いから「Be a Go-Getter ～6分間の野心的な話～」を企画した。約25か国の人々が集まる農村指導者養成専門学校「アジア学院」で長期ボランティアに参加していた先輩や、大学を休学して国際交流基金の日本語パートナーズの派遣事業に参加し、インドネシアで日本語の教師や生徒のパートナーとして活躍していた先輩など、海外に関するさまざまな経験をしてきた明学の3年生以上の先輩方に6分間のお話をしていただいた。予想を超える明学生が集まり、三日間で50名以上が参加した。



会場選びにもメンバーのこだわりが。
お昼ごはんを食べられ、かつ
アットホームな雰囲気が出る教室を。

感想・活動を通して得た学び

計6名の先輩のお話を聞いたが、全員ただの留学ではない体験をしていて、企画側の私たちからも「勉強になった」「良い刺激になった」といった声が多かった。

今後に向けて

お話をしてくださる方にはあらかじめ持ち時間を伝えてはあったが、時間をオーバーしてしまう方もいた。その時にどうすればいいか臨機応変に対応できたかということ、まだまだなところもあった。

(学生メンバー 社会学部社会学科/学生メンバー 国際学部国際学科)

◇ペットボトルキャップ回収企画 ～ハロウィン編～

目的	ペットボトルキャップ回収の促進
日時、場所	2016年10月27日(木)、28日(金)、31日(月)、横浜キャンパス4号館前
参加人数	28名

実施概要

10月には、5月にもおこなったペットボトルキャップ回収企画のハロウィンバージョンを実施した。海外プログラム事業部の学生メンバーが思い思いの仮装をし、ボランティアセンター前でキャップ回収を呼びかけた。ハロウィンの「trick or treat」をモチーフにキャップとお菓子の交換をおこなった。三日間の合計回収数は5,884個と、キャップ回収イベントを始めて過去最高記録となった。そして2016年4月から2017年3月にかけての回収数は36,120個となった。これは約40個分のワクチンに相当する個数である。



ある一日の集合写真。
仮装にも個性が出ます。

感想・活動を通して得た学び

ハロウィンのときには、三日連続で家から大きい紙袋で大量にキャップを持ってきてくれた学生がいた。ゴールデンウィークのときとは違って、みんなで仮装して回収を呼びかけるので雰囲気も盛り

上がるし、何より目立つと実感した。このイベントを継続的におこなうことによって月ごとの回収量も上げていきたい。

今後に向けて

2017年度からは毎月メンバーが回収し、個数を数えて結果を公表していきたい。結果を公表すればそれだけ回収していることを明学生にもっと知ってもらえるし、ペットボトルキャップを回収ボックス（横浜は「ペッタくん」、白金は「ふたまるくん」）に入れるだけで「人のため、地球のためにちょっといいことをした」という気持ちになってくれる学生が増えてくれたらとても嬉しい。

（学生メンバー 社会学部社会学科／学生メンバー 国際学部国際学科）

◇UNIQLO×UNHCR 共同衣服回収イベント「難民に服を送ろう」

目的	教育の大切さを伝える
日時、場所	2017年2月11日（土・祝）、12日（日）、東急プラザ戸塚
参加人数	12名（内、学生メンバー5名）

実施概要

2017年2月にはアパレルのユニクロとコラボ企画を実施した。着られなくなった洋服を回収し、難民の方々に洋服を贈り物として送り支援するこの企画は、戸塚駅そばのユニクロ東急プラザ店にておこなわれ、海外プログラム事業部のメンバーと一般学生、合計12名がボランティアに参加した。「難民とは」から学びはじめ、本当に洋服の支援は必要なのかという根本の問いを定期ミーティングで話し合い、学びを深めて参加したボランティアであったため、参加学生も積極的に行動している姿が見られた。結果として2,170着を回収した。

感想・活動を通して得た学び

海外プログラム事業部では度々、外部での実践活動が少ないことが課題として挙げられるのでこの活動はメンバーにとっても良い経験となった。そしてニュースでは難民のことをよく聞かすが、日本では「どこか遠い国の問題」と思いがちなので、難民のことを深く考える機会になった。

今後に向けて

上記にもあるが海外プログラム事業部の課題は外部での実践活動が少ないことなので、こういった活動をもっと増やしていきたい。また、ユニクロの社会貢献の理念や活動についても今後お話を伺う予定なので、この難民に洋服を届けるプロジェクトだけでなく総合的にユニクロの社会貢献活動を学びたい。

今後、海外プログラム事業部は新たにSDGs（国連が定めた「持続可能な開発目標」）を軸とした学びと行動のサイクルを作ろうとしている。SDGsをどれだけ周知し、メンバー自身も学びを深めていくかが重要となってくる。まずは自分たちが学ぶことを中心としたイベント企画、既存イベントへの参加、そしてSDGs周知イベント開催を目標としていきたい。

（学生メンバー 社会学部社会学科／学生メンバー 国際学部国際学科）